

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科
博士後期課程 専門職業人入学試験問題 [小論文]
【教科教育学専攻（国語科教育学・国語科内容学）】

解答上の注意

1. 解答用紙の所定欄に、研究指導名・指導教員名・受験番号・氏名を必ず記入すること。
2. 解答の際には、問題番号、設問番号を記入してから解答すること。（例「問題1 問1」）
3. 解答用紙が複数枚配付された場合、ホッチキスははずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
4. 問題用紙は「3枚」（本ページ含む）、解答用紙は「1枚」です。必ず枚数を確認すること。

以 上

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題

専門職業人入試

科目名

小論文

(国語科教育学・国語科内容学)

問題 次のAは、石山脩平『国語教育論』(一九三七)の一節(旧字・旧仮名遣いのまま。途中に省略した箇所がある)、Bは田近洵『創造の「読み」新論—文学の「読み」の再生を求めて』(二〇一三)の一節である。これらの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

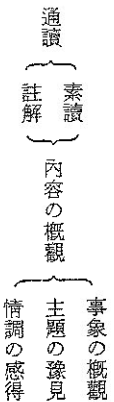
A

解釋の仕事は若干の段階に小分けられながらも一つの連続的操作として行はれる。小分けられた段階はこの操作の深化の目安として便宜上設定した区分であつて、實踐過程としては殊更の區劃を固執せず、むしろ力めて自然に、なだらかに、連続した仕事として進行すべきである。そこで私は後述の各段階に共通する一貫した原則を先づ指摘しておきたいと思ふ。

その第一はすべての段階が「読み」を以て一貫せらるべきことである。「通讀」・「精讀」・「味讀」といふ三段階を何れも「讀」の字を以て表はし、これを解釋固有の領域たらしめんとする私の底意は、「読みを以て一貫する」といふ原理を指示するためである。世上に行はれてゐる種々の名稱——「直觀・分析・綜合」とか「概觀・精査・確認」とか其他様々の呼稱——は読みによつて内容を捉へる場合の捉へ方であつて、謂はゞ内容に重きをおいた名稱である。私はむしろ端的に「読み」の一貫を強調し、而もその漸層的な深まりを意圖して、仕事の名稱としては「通讀・精讀・味讀」の語を用ひ、その仕事の中味としては、文の形式と内容を共に顧慮することにしたのである。随つてまた「読みを以て一貫する」といふ第一の共通原則は、すべての段階に於て「形式と内容を共に捉へる」といふ第一の共通原則をも兼ねてゐる。

(中略)

さて解釋過程の第一段階は「通讀」(Die flüchtige Lesung)である。私はこの段階の仕事として、(一)全文の素讀、(二)未知難解の文字語句の註解を挙げ、かうした形式方面の開拓によつて同時に、(三)内容の概觀即ち(一)事象の概觀と、(二)主題の豫見と、(三)情調の感得とを行ふべきことを要求する。これを表示すれば次の如くである。



B

〈読み〉は、作品との出会いから始まる。読者は、言語的資材である文章の展開に従つて読み進んでいく。語とその連鎖に符号としての意味を与え、文脈化によつて本文を立ち上げていく。語に対する注釈的理解やその連鎖に対する文法的解明を前提として、文脈を形成し、〈読み〉を創出していくのである。それが第一読(≡初読)である。

読み進む過程としての第一読は、本文を立ち上げつつ未知なる世界と出会つていく動的過程として、きわめて重要である。「読者」はテキストとかわかつて物語を仮構し、想像的意識主体として、そこに生きる。自分の日常から離れて虚構に参加し、他者の視点でものを見る。と同時に自分をそこに重ねて相対化し、批評の対象ともするのである。

そのような「初読」において大事なものは、読み進めながら、人物の心の動きや言動の変化などに気づくこと、そして、「なぜ」と問い、思いをめぐらせ考えることだ。特に、人物の心情や行動、あるいは彼をめぐる状況の変化などを表す表現に鋭く気づき、「反応すること——これは、読み進む過程における、読者としての最も大事な「心のはたらき」である。なぜなら、それぞれの場面での人物の言動やそれを表すことには対する知的あるいは情的反応などの「心のはたらき」は、そのあとの再読のあり方に強い影響を与えるからである。しかも、「おもしろい」とか「かわいそう」「そんなことつてあるの」「どうしてそうだったの」「なぜそうするの」など、人物の言動に対する「心のはたらき」は、文脈さえできていれば、読者自身が十分自覚できることでもあり、それが読みを深くするのである。

二〇一八年度

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題

専門職業人入試

科目名

小論文

(国語科教育学・国語科内容学)

問1 Aの「通読」、Bの「初読」とともに、「読むこと」の学習指導の初期の段階の在り方について言及したものと理解できる。この段階ではどのような目標を掲げ、具体的にどのような指導を展開するべきか。貴方の考え方を論述しなさい。なお論述に際しては、A・Bの指摘も踏まえてまとめること。

問2 「読むこと」の学習指導に関しては、これまでに様々な方法が模索されてきた。その歴史を振り返りながら、いま最も重要な課題は何かを明らかにしたうえで、その課題に関する貴方の対応について論述しなさい。なお論述に際しては、国語教育史の知見を踏まえてまとめること。

《注意》 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。解答用紙は裏面も使用可です。解答用紙の罫線が引かれた欄に
問1、問2とそれぞれ記入してから、続けて解答を書いてください。